隱忍して回答を得ざる事數日三月四日に至り社長園田氏は同答して曰く。諸君に約束せしは確なるも、遺憾ながら實行出來得ず、尚重役會議の結果要求は總て之れを拒絶するの外なしと。而して交渉斷絶の機刻々に迫らんとするや會社は吾人の結束を切り崩さんとしてあらゆる陋策と壓迫を試みんとす。然るに一方所轄品川警察署に於ては、至て平穩なるに拘らず、正私服警官約五六十名を配置し、工場の内外を警戒すること頗る嚴重を極むるものあり。斯の如く官憲資本家兩者の態度は、左なきだに不安動搖理にある從業員を驅つて益々憤慨激昂せしめ、九日朝出勤早々遂に内紛を醸生せしむるに至れり。此の間實行委員は固より、組合本部役員の苦心實に一通りならざるものありき。然るに品川署に於ては右内紛を口實とし、即日實行委員齋藤氏外三名を拘引し越て十一日同理由に依り森氏外一名を檢擧す。事態斯の如く官憲の威壓甚だ辛辣なるに拘らず吾人の容易に屈せざるを見るや、會社は同日終業僅に二分前、品川署刑事を立會はしめ同志五十二名に對して解雇辭令を交付せんとせり。吾人はその不當を詰り、斷乎として之れを拒絶し、翌十二日直に罷業を宣言せり。斯くて罷業を開始するや、又々品川警察署の壓迫は加はり、組合本部員たる桝田彌三郎、田口龜藏、中田熊藏の三氏を檢擧す。喃々何等の怪事ぞ。此れ正に威壓以て吾人の運動を『抹殺』し終らんとするものにあらずして何ぞ。吾人の斷じて屈する能はざる所なり。

二、對戰狀態に入る

茲に於て吾人は内に益々結束を固ふし、一方軍資金調達の爲め、組合員をして石鹸行商を開始せしめ、堅忍持久、目的貫徹に向つて努力しつゝあり。然るに會社は益々陋策を弄し、更に新しき馘首を以て之れを脅喝し、或は中間者を介して誘惑を試み、權謀術數至らざるなし。吾人如何に平和を希ふと雖も、鬪爭は日に熾烈の度を加ふの外なし。吾人固より必勝を期す、然れども惨敗も亦憾む所に非ず。男子主義に殉ず、誰か成敗を論せん。憾らくは、吾人薄資にして弱少、意餘て力足らず、運動の費用に在監者及家族の救護に困難甚しきものあり。希くは同志諸彦奮て同情と援助を與へよ。而して不信横暴を懲らし、資本主義をして正義の前に膝を屈せしめんかな。謹で白す。

大正十年三月

東京鐵工組合、
園池製作所罷業團一同
會議　大崎町居木橋二四二　林方

賀屋助教授

10.1.17

T
第
協調會

夫れ國民の富を生産するものは勞働者なり。勞働者無くんば何の工業、何の農業、何の商業か良く繁榮するを得ん。更に諸種の社會的文化の支持者も亦勞働者階級に在り。古代より人類の文化は背後に物質的勞働を提供する多數勞働者の存するに依りて生長し發達したり。現代日本文化の眞正の支持者も亦吾人勞働者階級に外ならざる也。

凡そ社會の爲に勤勞を捧ぐる人は何人と雖も其正當の報償を社會より與へられざるべからず。これ社會共存の大原則たり。然らば勞働てふ社會的勤勞に服する吾人の地位は果たして正當にして何等間然する所無きものなる乎。否、否。貧困と無智とは勞働者と形影相離れざる友人なり。物質文明は吾人の勞働の結實たりと雖も其利益は吾人の享受する處に非ず。吾人は熱心に學問、宗教、藝術等の精神文明の光に浴せんと欲すと雖も、一生無智の間に終らざるべからざるを如何にせん。斯くの如きは古代より勞働者階級の擔ひたる運命にして、また現に吾人の擔ひつゝある運命なり。

吾人は奴隷に非ずして自由の國民たり。日本は未開國に非ずして文明國たり。然るに吾人は實に人間として、自由の國民として文明國人として當然享受すべき何れの權利をも享受せざる也。

想ふに勞働者の權利の確立に對し一大障壁を成すものは實に治安警察法第十七條に在り。同法は體刑及罰金刑の嚴酷なる威嚇を以て直接には勞働者の同盟罷工權を奪ひ間接には勞働者の團結權を奪ふを目的とす。同盟罷工は勞働者が萬策盡きたる後に行ふ正當防衛たり。若し苛酷慘虐の工場主が過廉の賃銀を以て長時間勞働者を驅使し工場の設備如何に不衛生なるも毫も之を改善するの意思無きが如き場合に於て勞働者は同盟罷工に依らずして何に依りて自己の主張を貫徹するを得んや。第十七條掲ぐる所の暴行脅迫の不法なるは言を俟たず。然れども誘惑煽動に至りては字義曖昧にして眞正の解釋を得ること難し。勞働者が自己階級の利益を擁護せんとする團結につきても亦然り。實に治安警察法は資本家を偏重し勞働者を輕んずるに過ぐ。資本家は所謂溫情の人のみに非ず。私利のために